

小学校英語活動レポート

ターゲット	“What is he[she] doing?” 動作の単語と「～している」という表現を知り、英語によるコミュニケーションを楽しむ。		
主な語彙	singing, cooking, eating, dancing, walking, running, cleaning, swimming		
クラス	5年生（5年1組） 30名、 40分間 ※この日は授業時間変更のため、5分短縮		
テキスト	特になし		
他に使ったもの	動作カード（大・1セット=B5サイズでラミネートした動作のカードを8枚、 小・8セット=B5を4等分したくらいのサイズで、ラミネートしたもの）、マグネット		
授業の流れ	主な活動		
	HRT(担任)	ES(英語サポーター)	子どもたち
Greeting	Good morning. How are you?	Good morning! (自己紹介)	Good morning! -I'm fine, thank you.
Warm up Simon Says	一緒に動作をする。	命令ゲーム "Simon Says" の名前部分を変えて行う。リーダーとなって、クラスに指示を出す。 Sayaka says, swim! OK, sit down. (←ミスを誘う) 自分でも大きく動作をする。	全員が同時に参加して行う。 間違えた子は座って、ほかの子どもたちを見学する。(この活動は初めてではないので、このあたりの指示は不要だった)
Words Practice	マグネットを使い、カードを黒板にとめる。 サポーターの後に続いて、子どもたちと一緒に発音する。	カードを指しながら、動作の単語を練習する。(文の形まで導入済みの状態のため、復習となる) 1) 単語の～ing形 2) He[She] is... ing They are ...ing. (カードに複数の人物が描かれている場合) 3) What is he [she] doing? / What are they doing? と問いかける。 自然なリズムで答えられるよう、3拍で発音していた文を2拍へ。(右欄参照)	1) singing, cooking, eating, dancing, walking, running, cleaning, swimming 2) 3) He is running. She is dancing. They are walking. He <u>is</u> running. “is”にもストレスがあるので間延びする。 He <u>is</u> running. “He is” をまとめて1拍に乗せることで、より自然にリズムよく言うことができる。

↓金井さやかより、コメント↓

担任の女性教諭は、20代半ば、特に留学経験などはないとのこと。日本語をメインに話しつつ、活動の区切りごとに指示を出し、クラス全体をまとめている。

英語の時間は、子どもたち全員が名札をつけている。(大文字でファーストネームを書いたもの)
初め、「今度の先生は誰だ」という反応が感じられた。“I know ○○先生, and ○○先生”と、ほかのAETの名前を挙げたら、「先生たちは知り合い同士なんだ」ということでほっとした様子。

“Sayaka says, turn around!”と言ったときには、子どもたちが「どっち？」と聞いてきた。“Turn to your right!” ととっさに付け足した。これまでも繰り返し動作のゲームを楽しんできた様子が伺える。

手拍子やリズム楽器を取り入れて、強制的な練習でなく、楽しい雰囲気の中で進めるように注意している。(私はそのためのスペシャルアイテムとして、マラカスを使っている。)

Activity1 増やせ！ 宇宙人 ゲーム	列ごとに動作を割り当てて「〇〇星人」になるように指示する。 スタート、終了の合図を出す。その間はゲームに加わる。	ゲームに加わり、できるだけ多くの子ともと接する。 Hi, 〇〇（子どもの名前を呼びかける）。 I'm cooking-seijin. Rock, scissors, paper, go! Oh, you win! Now I'm dancing-seijin. See you later.	Hi, I'm dancing-seijin. Rock, scissors, paper, go!
Activity2 What's my card?	4 人一組として子どもたちを8グループに分ける。 ゲームのやり方を実演した後、グループの一つに加わりつつ、日本語と英語を交えて全体に指示を出す。 Are you ready? 3, 2, 1, Go! 「カードを交換して！」	ゲームのやり方を実演した後、グループの一つに加わって活動する。 Yes, we're ready! I'm cooking. Right? Yes, you're swimming. Good!	指名された 2 人がボランティアとして実演に参加。 8グループに分かれて、ゲームを行う。
Review	机を戻すよう指示し、黒板のカードに注目させる。	カードを指しながら、英語表現をリズムよく復習する。 What is he [she] doing? / What are they doing? と問いかける。	They are walking. など、カードの絵に応じて答えていく。
Closing	That's all for today. See you next time.	Thank you. I hope to see you again soon.	Thank you, goodbye.

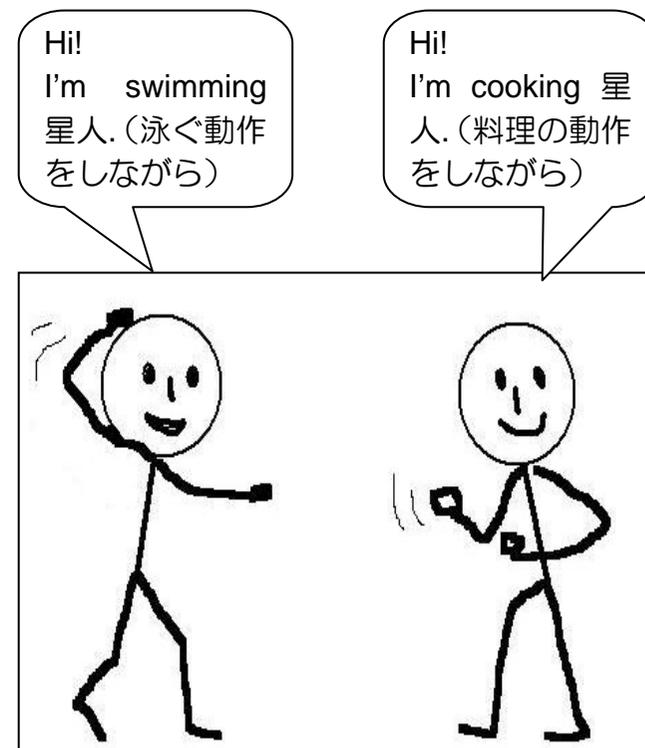
He, She, They, I などの主語の使い分けについては、教師が言葉で説明するよりも、実際にイラストやシチュエーションに合わせて繰り返し使うことで慣れている様子。子どもたちにも混乱は見られない。

子どもたちの中には、仲の良いメンバー数人で一緒に動き回り、代表の一人だけがじゃんけんをして「running 星人」を増やそうなどという動きもあった。ルールどおりの動きではないが、英語は声に出しているし、何よりとても楽しそうだったので、そのまま活動を続けた。

子どもたちの一人・Rくんが、私のマラカスを触りたくて立ち上がり、教室の前へ。担任の許可もあったので、Rくんを助手として、リズム担当になってもらった。しかし、実際にはなかなかこちらが要求するリズムはむずかしく、ちょっとぎこちない「復習」タイムとなった。それでも、Rくん本人も、クラスの仲間たちも楽しそうにしていた。

Activity: 増やせ！宇宙人ゲーム

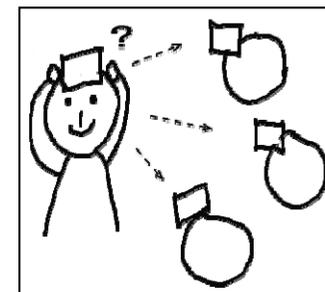
- (1) 班ごとに動作を割り当て、「〇〇星人」になる。
(今回のケースでは、教師2人を含めて32人、動作が8種類だったので、4人ずつ「running 星人」「walking 星人」と割り当てていった。)
- (2) 担任の“Ready, go!”の掛け声で、子どもたちは教室内を歩き回り、出会った友達とあいさつしてから、じゃんけんをする。“Rock, scissors, paper, go!”
- (3) じゃんけんに負けた子どもは、相手の「〇〇星人」を名乗り、次の相手を探す。
じゃんけん結果に応じて「〇〇星人」の名前が変わることになる。
(列車のようにつながることはせず、各自で動き回る。)
- (4) 担任の“Time is up!”の合図で子どもたちは席に戻る。どの「星人」が増えているか、拳手を確認し、英語で人数を数えて黒板に書き出す。



(左の写真：黒板にとめた大きなサイズのカード。今回は約3分の活動を2回行なった。カードの下に書いた数字は、「星人」ごとの集計結果)

Activity: What's my card? (4人グループ版)

- (1) 4人一組で、4枚のカード(人数と同じ枚数のカード)を使う。机を4つ寄せて、全員が向き合う形で行う。
- (2) カードを机の上に広げ、どのカードがあるかを覚えたあと、裏返して混ぜる。
- (3) 「3, 2, 1, go!」の合図で一人1枚ずつカードを取り、自分ではそのカードを見ないように、おでこに当てる。このとき、他の仲間からは自分のカードに書いた字や絵が見えるようにする。
- (4) 仲間が持っているカードを見渡して、自分のカードが何かを推測し、できるだけ早く自分のカードが何かを当てる。
例: cooking, dancing, walking, singing のカードを使い、
cooking, dancing, singing のカードが自分から見えている場合・・・「I'm walking.」
これを繰り返す。
- (5) 同じカードのセットで3回ほど行ったら、グループ同士でカードを交換し、同じゲームを繰り返す。
(1班のカードを2班へ、2班のカードを3班へ・・・といった具合に交換していく)



4人以上でも活動できるが、人数が多くなるほど、覚えるべきカードが増えるため、難しくなる。

◆ 補助教材について

絵カードは、インターネット上のクリップアート(イラスト)を使って作成し、学校内でラミネートしたものだとのこと。

(右の写真: 今回利用した動作カードのうち、小さいサイズのもの。)

動詞絵カードの一部は、子ども英語 BOOKS CD-ROM ブック「英語絵カード集 400」にも収録されています。

([→子ども英語BOOKSシリーズをチェック](#) 私も執筆をお手伝いしたりしていますが、幅広く使える活動資料集としておすすめです。)



* 学校の状況・・・1～6年（全学年）を対象として英語活動を実施しはじめて、2年目になる。必修化が近づいているのを受けて、昨年度の月1回程度実施から、時間数を大幅に増やして行っている。

（1コマ45分で、1～4年生 国際理解教室5時間を含む年間20時間、5、6年生 年間35時間）

学校に週2日ほど派遣されてくるAETはいるが、AETだけでは予定している全クラスをカバーできない。そこで、以下の4通りの指導形態を適宜取り入れている。

「担任のみ」

「担任+AET」

「担任+日本人サポーター」

「担任+AET+日本人サポーター」

◆ 教室でのサポートがメインになるため、活動中の写真などは撮影できませんが、実際の授業内容を元に、できるだけ分かりやすく、再現しやすく、といった点に気をつけながらレポートを作成しました。ご質問・ご要望などがありましたら、遠慮なくお寄せください。レessonプランへのご意見、実際に取り入れてみての様子やご感想などもお待ちしております。

メールアドレス info@english-box.com（English-Box 金井さやか まで）

仲間の先生から、嬉しいメッセージをいただいていますので、ここでご紹介させていただきます。

「4年前にJ-SHINE資格を取得していましたが、今度のJ-SHINE資格を再申請するため、書類審査の活動内容についての提出を悩んでいる所、（この小学校レポートが）大いにヒントとなりました。」

（Kaoriさんより。小学校での英語活動歴は7年になるそうです）

Kaoriさん、ありがとうございました！

◆ 活動を終えて：

クラス担任の先生からは、前日に電話連絡があり、FAXでレッスン計画を送ってもらった。この日は早めに学校に着いたつもりが、「行事の関連で、全校で時間を繰り上げて授業をすることが決まった」日だったため、私は授業に5分の遅刻となってしまった。（この小学校で英語教育サポーターとして活動しているメンバーは、私以外は全員、小学校に通っている生徒の保護者。そのため、子どもに手紙を渡す形で連絡ができるが、私は書類を郵送してもらったり、FAXしてもらったりと手間をかけてもらっている。このようなケースは初めてだったが、今後自分でも気をつけようと思った。）

今回の5年生のクラスでは、英語活動への抵抗は感じられなかったものの、新しい教師に対して「警戒心」むき出しの子もいたため、「自己紹介のとき、英語で話すスピードを上げすぎないこと」「クラスの皆や担任の先生を褒めること」を心がけた。AETが前に立っているときならば、子どもたち一人ひとりの間に入って声をかけられるが、今回はそれもできないため、クラス全体に目を配りつつも、一人ひとりと目を合わせることが必要になると感じた。

最初に一番心配そうな顔をしていた男の子が、授業のあとに「先生面白かったよ」（授業のことも、私個人のことも言ってくれているらしい）と寄ってきてくれて、さらに黒板のカードを撮影しようとカメラを構えたら、笑顔でフレームに飛び込んでくれる子どもたちもいて、今回も去りがたい感じがした。

クラスには、アメリカ人と日本人のハーフだという女の子がいたが、授業中は皆と同じように笑顔で参加していた。授業が終わって話しかけたら、ネイティブ英語で返事が返ってきた。それを見て、「おー英語で会話してる」という男子児童たち（笑）。子どもたちに、「英語を話している姿を見せる」「あなたもこうなれるんだよ、というメッセージを送る」ことを続けたい。